

平成 28 年 10 月 4 日

報道関係各位

東京建物株式会社

アセンダスシンブリッジ社、三井物産との共同事業  
シンガポールでオフィスビル再開発事業に参画  
～ 東南アジアで当社初となるオフィスビル開発事業 ～

東京建物株式会社（本社：東京都中央区、社長：佐久間一）は、アジア新興国等における事業の拠点である Tokyo Tatemono Asia Pte. Ltd. を通じて、アセンダス・シンブリッジ・グループ（本社：シンガポール、社長：ミゲル・コー、以下「アセンダスシンブリッジ社」）、及び三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、社長：安永竜夫、以下「三井物産」）と共同で、シンガポール・ビジネス中心地区のオフィスビル再開発事業に参画することになり、本日、3 社で合弁会社の株主間協定書を締結しましたので、お知らせします。

本計画は、既存オフィスビル（CPF ビル）を解体して、新たにグレード A のオフィスビルを建設する事業で、平成 32（2020）年 4 月竣工を予定しています。総事業費は約 10 億シンガポールドル（約 750 億円）の見込みです。

本計画を進める「タンジョンパガー」地区は、金融機関や法律事務所等が集積するシンガポールのビジネス中心地区の一角にあり、近年再開発が加速していることから今後更なる発展が見込まれるエリアです。とりわけ、本計画地は MRT（地下鉄）「タンジョンパガー」駅直結となる予定に加えて、平成 33（2021）年には、計画地至近に MRT 新線の「セントンウェイ」駅が開業予定されているなど、非常に高い交通利便性を有しています。また、目抜き通りであるロビンソン通りとマックスウェル通りの交差点に位置しているため目につきやすく、周辺建物に遮られることなく、新オフィスビルからは抜群の眺望が予定されます。

事業パートナーのアセンダスシンブリッジ社はシンガポール最大級の政府系不動産開発事業者であり、豊富な開発実績と顧客ネットワークを有してアジア全域の 10 か国 29 都市にて事業を展開中です。三井物産と当社はこれまで日本国内でオフィス・共同住宅の共同開発の実績があり、海外では今回が初めての共同事業となります。

当社は、現グループ中期経営計画において、「アジア新興国等における事業具体化」を海外事業分野における取り組みの一つとして掲げており、本件がその第 1 号案件となります。今後も、これまで培ってきた国内における事業経験・ノウハウを活かし、また、本件事業への参画により、シンガポールでの開発ノウハウを習得することで、アジア新興国等における更なる事業機会の獲得を進めて参ります。

### 1. 本プロジェクト概要

プロジェクト名	CPF ビルディング再開発プロジェクト
所在地	79 Robinson Road, Singapore
用途	オフィス及び一部商業
土地面積	4,371 m <sup>2</sup>
建物延床面積	約 57,400 m <sup>2</sup>
工期（予定）	2017 年着工、2020 年竣工
総事業費	約 10 億シンガポールドル（約 750 億円）

### 2. 合弁会社概要

正式名称	Southernwood Property Pte. Ltd. サザンウッド・プロパティ・プライベート・リミテッド
出資構成	三井物産・Tokyo Tatemono Asia Pte. Ltd. の合弁会社 35% アセンダスシンブリッジ社 65%
主な役割	本プロジェクトの開発、保有、運営

### 3. サイニングセレモニー写真



左から、  
三井物産株式会社 執行役員 コンシューマービジネス本部長 西村 至、  
アセンダス・シンブリッジ・グループ グループCEO ミゲル・コー、  
当社 取締役専務執行役員 種橋 牧夫

#### 4. 位置図



以上